

取扱説明書

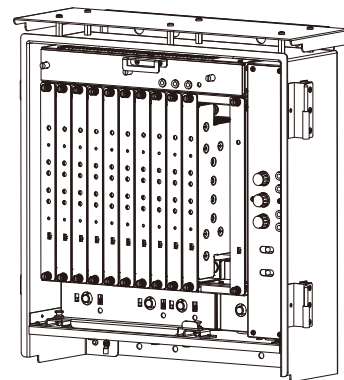
このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



DIGITAL

地上デジタル放送用ヘッドアンプ HA61YA



製品概要

この製品は、共同受信施設の受信点において、地上デジタル放送の各チャンネルの信号レベルを最適な信号レベルに揃えて伝送する機器です。入出力チャンネルを任意に設定することができます。（アジャイル方式）

安全上のご注意

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は禁止の行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



- この製品のAC100V 給電用電源プラグは2ピンメタルコンセントプラグです。必ず2ピンメタルコンセントに挿入し、その後アース端子で保護接地してください。



- この製品のアース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線で接地してください。接地しないと避雷や保護接地の効果がなくなり、火災や故障の原因となります。



- 高所などでは足場と安全を確保し、作業時は手袋をするなど安全対策を行ってください。落ちたり、すべったりして、けがの原因となります。



- 風の強い日や、雨、雪、雷などの天候の悪い日や暗い所では、危険ですから設置工事や点検をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。通電形機器を挿入する場合は、通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



●この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、製品と接栓の接続および接栓と同軸ケーブルの接続で、心線と外部導体がショートしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



●この製品に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。雨天での設置工事や点検・調整で蓋を開けないでください。火災や感電の原因となります。



●この製品を設置・点検・調整した後は、正しく蓋を閉めてください。水が入ったりして、故障や火災、感電の原因となります。



●万一内部に水などが入った場合は、すぐにこの製品トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にし、この製品に電源供給している製品の電源を切り、給電用ケーブルをこの製品から抜いて施設の管理者、工事店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



●この製品に接続したケーブル類を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っ張ったりしないでください。火災や感電の原因となります。
ケーブル類が傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



●万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにこの製品トランス部の電源スイッチ（上側）を OFF にし、この製品に電源供給している製品の電源を切り、給電用ケーブルをこの製品から抜いてください。煙がでなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。



●この製品を分解しないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



●この製品や部品および工具類を高い所から落とさないでください。けがの原因となります。



●この製品のヒューズは、同一規格の容量および形状のものをご使用ください。また交換の際は、この製品トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にしてください。火災や感電の原因となります。



●取り付けネジや、ボルトや接栓は、締め付け力（トルク）に指定がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



●雷が鳴り出したら、この製品には触れないでください。感電の原因となります。



注意

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

●この製品の電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグのキャップ部を持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



●ぬれた手でこの製品トランス部の受電切換スイッチ、入力部の送電出力スイッチの操作や給電用ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となることがあります。



●お手入れの際には、ベンジン・アルコール・シンナーなどは使わないでください。塗装がはげたり、変質することがあります。
お手入れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学雑巾を使用する際には、その注意書に従ってください。



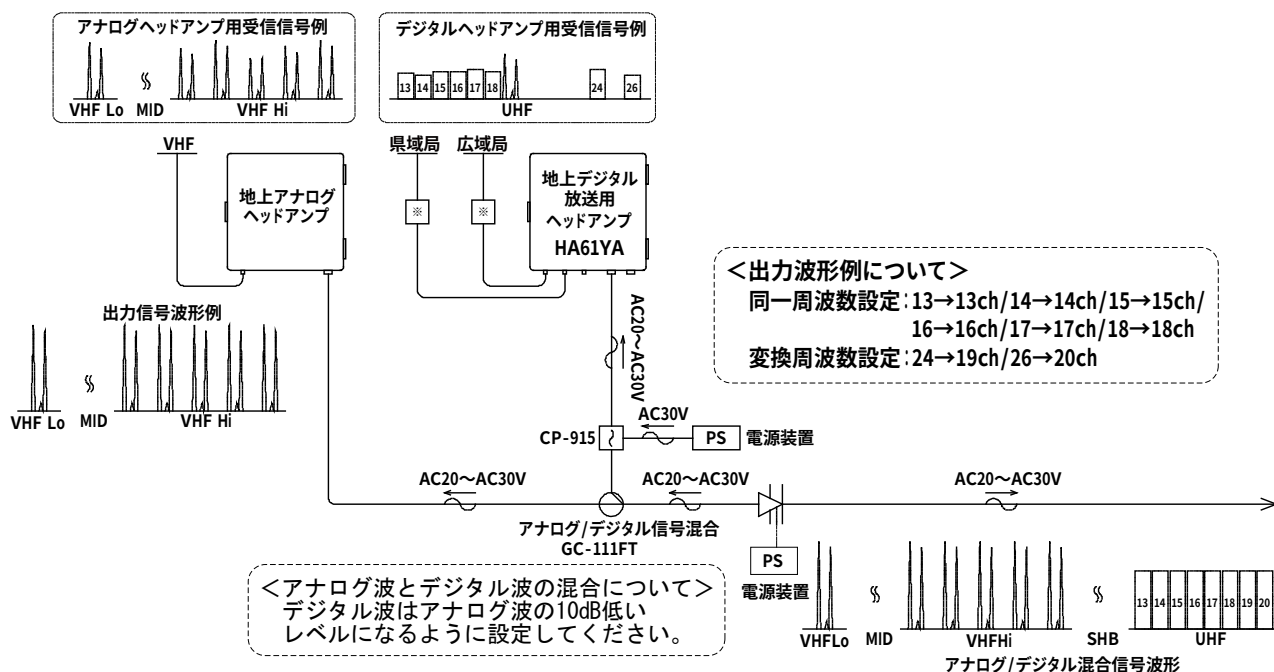
目 次

製品概要	1
安全上のご注意	1
特長	4
システム例	4
使用上のご注意	5
各部の名称	5
<前面>	5
<底面>	5
<付属品>	5
取付方法	6
<壁面取付方法>	6
<遮光板取付方法>	6
<マスト取付方法>	6
<フタの開閉>	7
<フタの取りはずし>	7
ケーブル接続と防水処理	7
<入力同軸ケーブルの接続>	7
<出力同軸ケーブル、本体給電（AC30/60V）用ケーブルの接続>	7
<AC100V 電源ケーブルの接続>	7
【電源ケーブルの加工方法】	8
<接続ケーブルの防水処理>	8
地上デジタル放送信号の入力	8
<ライン入力について>	8
<ヘッド1入力、ヘッド2入力について>	8
電源の設定方法	9
<トランス部>	9
【電源設定の方法】	9
【共通設定：本体給電 OFF／電源ユニットへの電源供給停止】	9
【AC100V の場合】	9
【AC20～30V、AC40～60V の場合】	9
<電源ユニット>	9
各ユニットの機能と調整方法	10
<入力部>	10
【入力レベルの調整方法】	10
<コンバーターユニット>	11
【入力レベルインジケータについて】	11
<出力アンプユニット>	12
【出力レベルの調整方法】	12
<入出力レベルの測定方法>	13
メンテナンス	13
【点検】	13
【ヒューズ交換方法】	13
ユニットの追加、交換方法	14
<コンバーターユニットの追加・交換>	14
【ユニット追加・交換方法】	14
<電源ユニットの交換>	14
【ユニット交換方法】	14
規格特性	15
消費電力一覧表	15
ブロックダイヤグラム	16
外形寸法図	16

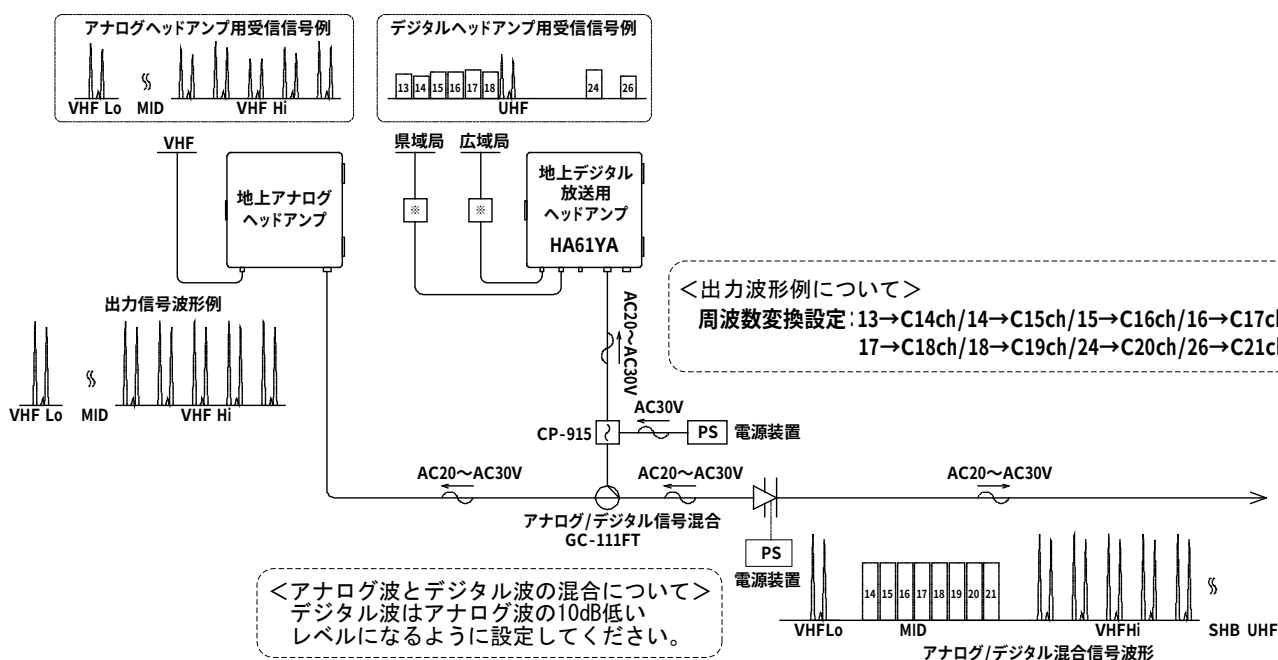
- (1) 入力チャンネルおよび出力チャンネルを任意に設定できます。
- (2) 1 台のコンバーターユニットで周波数変換パススルー、同一周波数パススルーに対応しています。
※コンバーターユニットは出力チャンネルにより、MID タイプと UHF タイプの 2 種類があります。
- (3) 入力レベルを容易に判断できる入力レベルインジケータを採用しています。
- (4) 自動利得制御機能 (AGC) 内蔵により、安定した信号を供給することができます。
- (5) スケルチ機能 (SQ) 内蔵により、放送波が停止したとき他のチャンネルへの影響を取り除きます。
- (6) 帯域外減衰量および群遅延特性が優れた地上デジタル放送専用フィルターを採用しています。
- (7) 電源スイッチ切換により AC20~30V、AC40~60V、AC100V の 3 系統の動作電源に対応していますので、システムに応じて容易に電源選択ができます。
- (8) 最大 10 波まで対応できます。
- (9) 各ユニットは着脱式で、保守管理が容易です。

システム例

<UHF-UHF伝送システム例>



<UHF-MID伝送システム例>

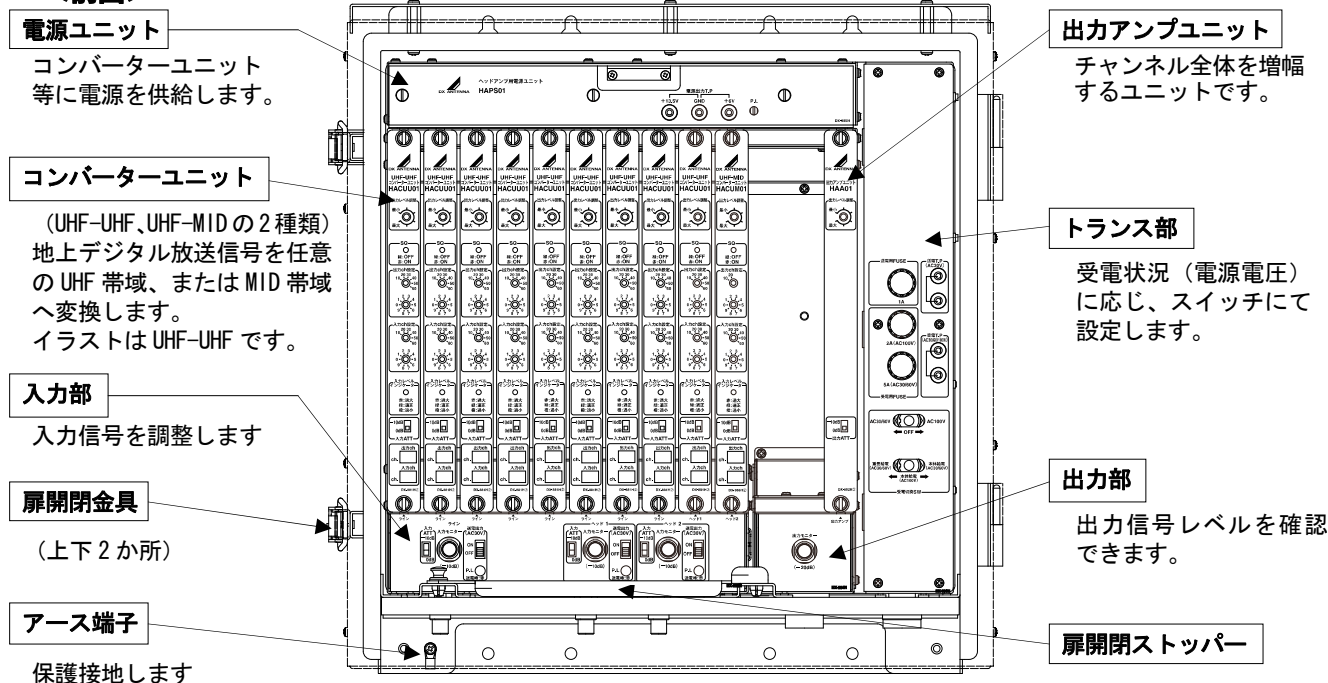


使用上のご注意

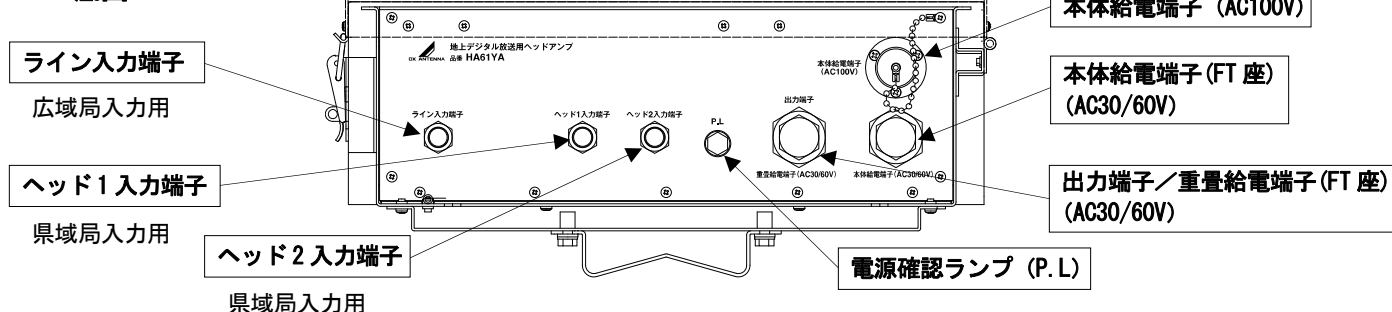
- (1) 屋外に設置する場合はなるべく直射日光を避け、風通しの良い場所に設置してください。収容箱などに収納する場合は、放熱を施した通気性の良い収容箱を選択してください。
- (2) 屋内に設置する場合は、風通しの良い場所に設置してください。
- (3) 振動の多い場所での使用はなるべく避けてください。振動の恐れがある場所へ設置する場合は、振動が直接製品本体に伝わらないように対策を施してください。
- (4) この製品への電源投入は全ての配線終了後に行なってください。
- (5) 入出力接栓ならびに電源供給接栓は、接続終了後自己融着テープとビニルテープなどで、防水処理を施してください。(接続方法は7~8ページをご覧ください。)
- (6) 本体アース端子を引っ張り強さ 0.39kN 以上の金属線または直径 1.6mm 以上の軟銅線により地面に接続してください。
- (7) 入力端子から他の機器へ電源を供給する場合の送電電流容量は、各入力端子からの送電電流の総合計で最大 0.5A です。電流容量を超えて使用しないでください。
- (8) ヒューズは同一規格の容量および形状のものをご使用ください。また交換の際には、必ず受電切換スイッチ(上側)を OFF にし、電源が供給されていない状態で行なってください。
- (9) 長期間の安定動作を行なうために定期的な点検を行なってください。

各部の名称

<前面>



<底面>



<付属品>

付属品	数量	付属品	数量
電源ケーブル (2.5m)	1	ヒューズ (FGMB125V5A PbF)	1
AC プラグ	1	ヒューズ (FGMB125V2A PbF)	1
防水キャップ (各入力端子に付属)	3	ヒューズ (FGMB125V1A PbF)	1
キャップ (AC100V 本体給電端子に付属)	1	上面遮光板 (取付用ネジ 6 本含む)	1
M18 防水プラグ (出力端子、AC30/60V 本体給電端子に付属)	2	マスト取付金具 (取付用ボルト 4 本含む)	1
調整用ドライバー (本体フタ裏面に付属)	1	丸木ネジ (壁面取付用 5.8×32mm)	4

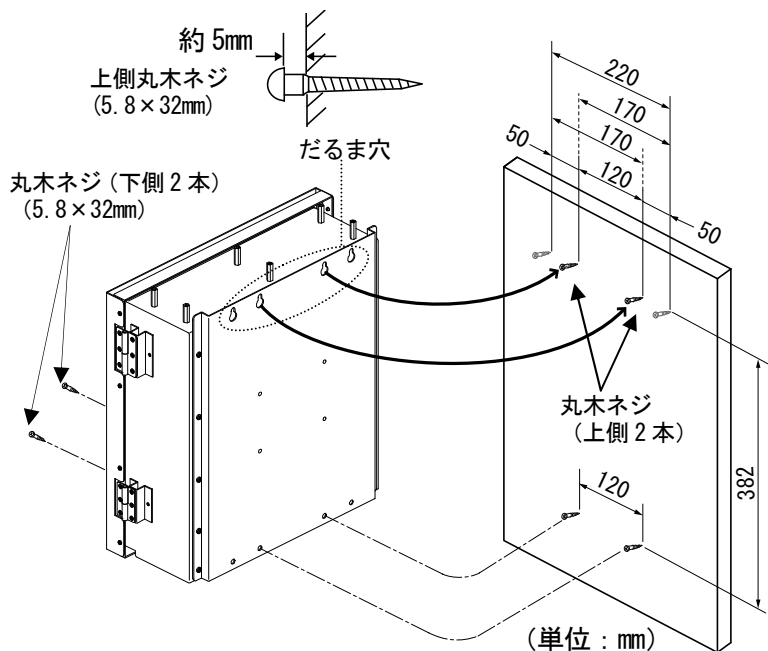
<壁面取付方法>

- (1) 設置する壁面の上側に、丸木ネジ 2 本をネジ頭を 5mm 浮かせた状態で幅 120mm(または 170mm、220mm) 間隔で取り付けます。
- (2) 丸木ネジ 2 本に、本体背面のだるま穴 2 か所を引っ掛け、丸木ネジを締め付けます。
- (3) 本体下側 2 か所を丸木ネジ 2 本で固定します。このとき、ネジ間隔が 120mm 以上となるようにしてください。

〔ご注意〕

丸木ネジ 2 本の左右間隔を 50mm にすると、強度不足となります。

- (4) 本体を壁面に取り付けた後、遮光板を取り付けてください。

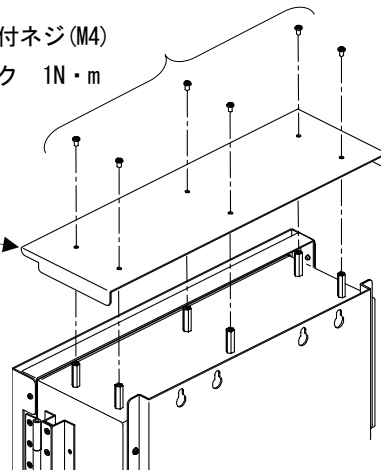


<遮光板取付方法>

本体の上面に取り付ける遮光板は、取り付ける方向に注意して、付属の遮光板取付ネジ 6 本で本体に取り付けてください。

遮光板
(取付方向注意)

遮光板取付ネジ (M4)
締付トルク 1N・m



※屋内設置では取り付ける必要はありません。

<マスト取付方法>

- (1) マストに市販の自在バンドなどでマスト取付金具 (M 型) を取り付けます。

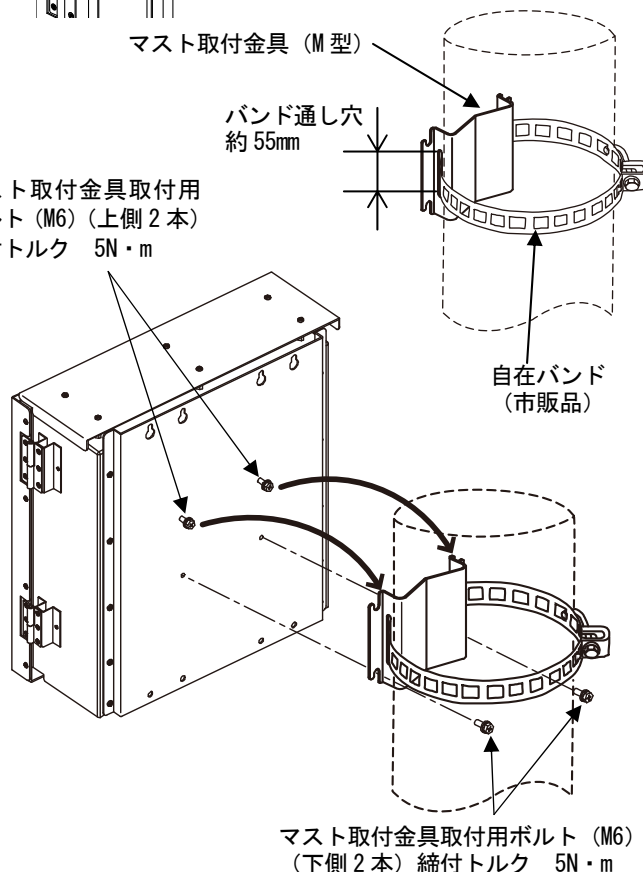
マスト取付金具のバンド用通し穴約 55mm
自在バンド: 幅約 30mm、1 本
ステンレスバンド: 幅約 10mm、2 本

マスト取付金具取付用
ボルト (M6) (上側 2 本)
締付トルク 5N・m

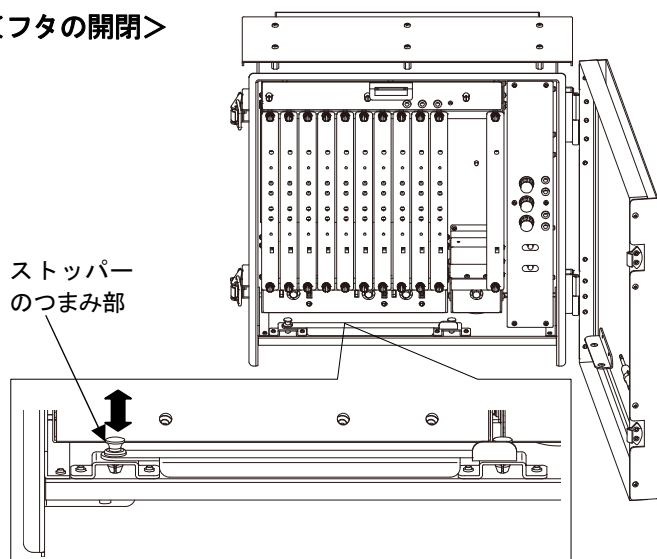
バンド通し穴
約 55mm

自在バンド
(市販品)

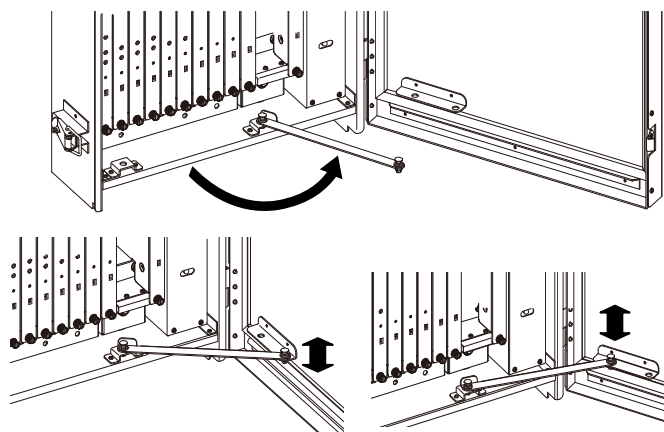
- (2) 本体背面の中央取付穴上側 2 か所にマスト取付金具取付用ボルト 2 本をボルト頭が 5mm 程度出た状態で取り付けます。
- (3) 本体をマストに取り付ける前に、遮光板を取り付けてください。
- (4) マスト取付金具に本体のマスト取付金具取付用ボルトを引っ掛けます。
- (5) マスト取付金具の下側からマスト取付金具取付用ボルト 2 本で本体に固定します。
- (6) マスト取付金具取付用ボルトの上側 2 本を増し締めして、締付トルク 5N・m で固定します。



<フタの開閉>

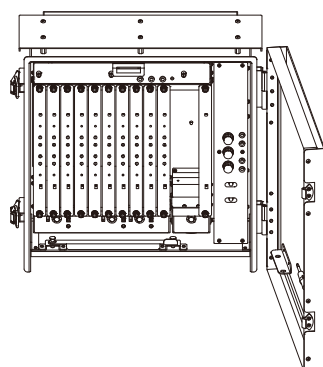


ストッパーで、開けたままフタを固定できます。
強風時はストッパーを使用せず、フタを取りはずして作業してください。

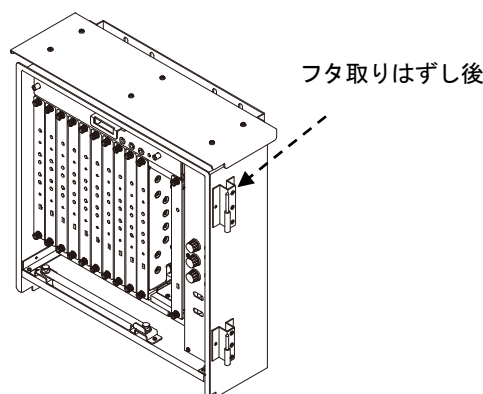


ストッパーのつまみ部をフタ側の穴に差し込むことで固定します。

<フタの取りはずし>



本体のフタは、上にずらすと取りはずすことができます。
90 度以上開いてから上下方向に抜き差ししてください。



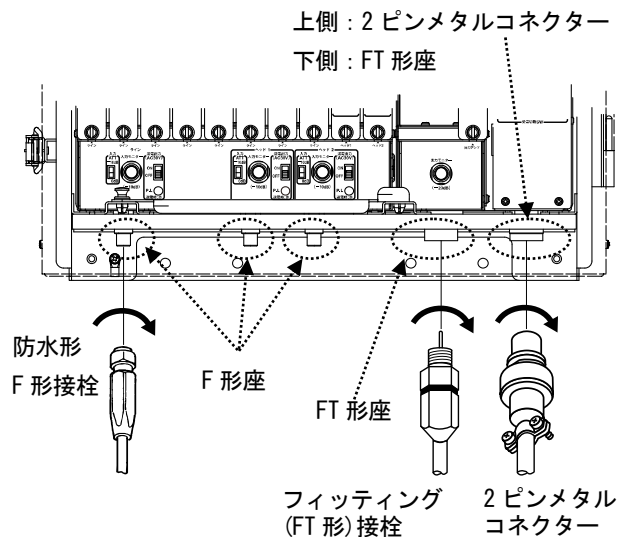
ケーブル接続と防水処理

<入力同軸ケーブルの接続>

- (1) 入力端子には、入力ケーブルに適合した防水形 F 形接栓を使用し、同軸ケーブルを接続してください。
- (2) 接続の終わった接栓には自己融着テープおよびビニルテープで防水処理を施してください。
- (3) 使用しない入力端子には、必ず出荷時に取り付けてある防水キャップをしっかりと取り付けてください。

<出力同軸ケーブル、本体給電 (AC30/60V) 用ケーブルの接続>

- (1) AC30/60V 仕様で本体給電をする場合は、電源用ケーブルには JIS 規格ケーブル (JIS C3503、8C 以上のパイプケーブル) をご使用ください。使用しない給電端子には、必ず出荷時に取り付けてある M18 防水プラグを取り付けてください。
- (2) 出力端子には、出力ケーブルに適合したフィッティング (FT 形) 接栓 (ミリネジタイプ) を使用し、同軸ケーブルを接続してください。
- (3) 接続の終わった接栓には、自己融着テープおよびビニルテープで防水処理を施してください。



締付トルク

防水形 F 形接栓 : 2N・m

フィッティング (FT 形) 接栓 : 12 ± 0.1 N・m

M18 防水プラグ (FT 形) : 12 ± 0.1 N・m

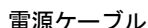
※必要以上に締め付けないでください。
端子を破損する場合があります。

<AC100V 電源ケーブルの接続>

AC100V 仕様で本体給電をする場合は、付属の電源ケーブルの 2 ピンメタルコネクタをしっかりと接続してください。AC プラグを使用する場合は、8 ページの「電源ケーブルの加工方法」の通り、電源ケーブルに取り付けてください。電源ケーブルを使用しない場合は、必ず出荷時に取り付けてあるキャップを元通りしっかりと取り付けてください。

(1) 加工前の電源ケーブルにキャップを通します。

- (3) AC プラグにキャップを被せます



本体底面に接続したケーブルの防水処理は、自己融着テープとビニルテープで施してください。

- (2) つぎにビニルテープを自己融着テープの上からテープ幅の1/2が重なるように巻き、自己融着テープ同様指でよく押えて密着させてください。



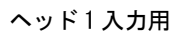
<ライン入力について>

複数波同時受信の場合に接続します。最大8波（8分配）に対応します。

1 台のアンテナからの地上デジタル放送信号をヘッド 1 入力端子またはヘッド 2 入力端子に入力すると、分配することなく直接対応するコンバーターユニットに送出します。

します。

ライン入力用



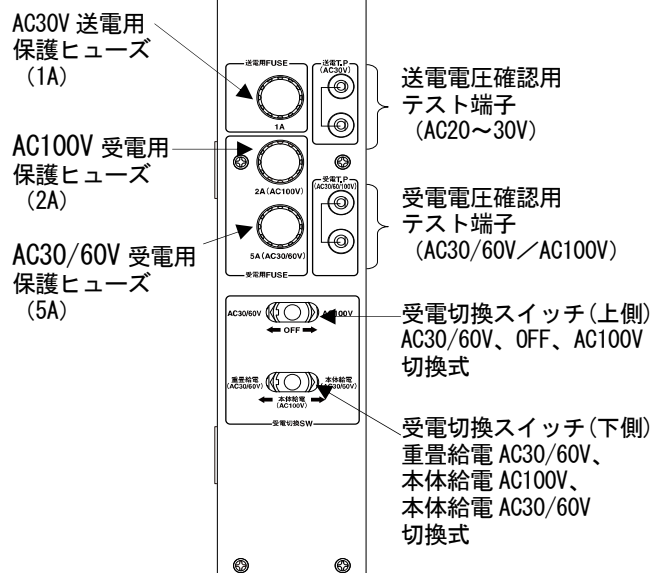
<トランス部>

給電方法の詳細は、必ず手順通りに作業してください。
電源の供給は全てのケーブル（信号および電源ケーブル）
を接続し、スイッチの設定が完了した後に行なってください。

【電源設定の方法】

- (1) トランス部の受電切換スイッチ（上側）が OFF に
なっていることを確認します。
- (2) トランス部の受電切換スイッチ（下側）を設定し
ます。
- (3) 受電方法を確認し、使用する電源に応じて本体
底面の端子に給電用ケーブルを接続します。
ただし、まだ電源は供給しないでください。
- (4) 受電方法と受電切換スイッチ（下側）の位置を確
認します。
- (5) (4)に問題なければ、電源を供給します。
- (6) トランス部の受電切換スイッチ（上側）を設定し
ます。
- (7) AC 受電テスト端子で電源電圧を確認できます。
- (8) AC 送電テスト端子で送電電圧を確認します。
- (9) 電源ユニットの電源確認ランプ（P. L）が点灯
していることを確認します。
- (10) 電源ユニットの DC テスト端子で出力電圧を確
認します。

〔トランス部〕



【共通設定：本体電源 OFF／電源ユニットへの電源供給停止】

受電方法	電源電圧	受電切換 SW（上側）
本体給電 重量電源	AC100V、AC20～30V、AC40～60V AC20～30V、AC40～60V	AC30/60V AC100V ← OFF →

【AC100V の場合】

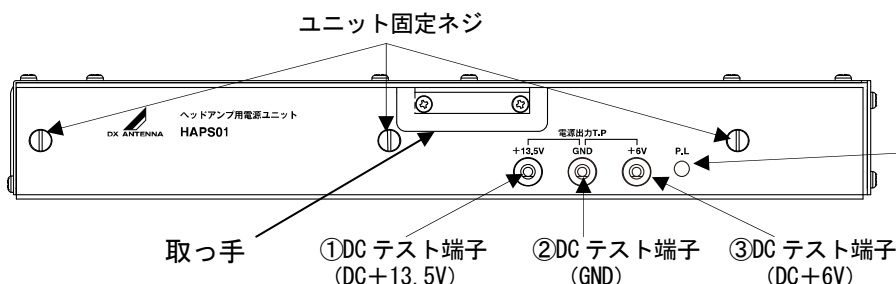
受電方法	電源電圧	受電切換 SW（下側）	受電切換 SW（上側）
本体給電端子 (AC100V)	AC100V	重量給電 (AC30/60V) 本体給電 (AC30/60V) ← 本体給電 (AC100V) →	AC30/60V AC100V ← OFF →

【AC20～30V、AC40～60V の場合】

受電方法	電源電圧	受電切換 SW（下側）	受電切換 SW（上側）
本体給電端子 (AC30/60V)	AC20～30V AC40～60V	重量給電 (AC30/60V) 本体給電 (AC30/60V) ← 本体給電 (AC100V) →	AC30/60V AC100V ← OFF →
重量給電端子 (AC30/60V)	AC20～30V AC40～60V	重量給電 (AC30/60V) 本体給電 (AC30/60V) ← 本体給電 (AC100V) →	AC30/60V AC100V ← OFF →

<電源ユニット>

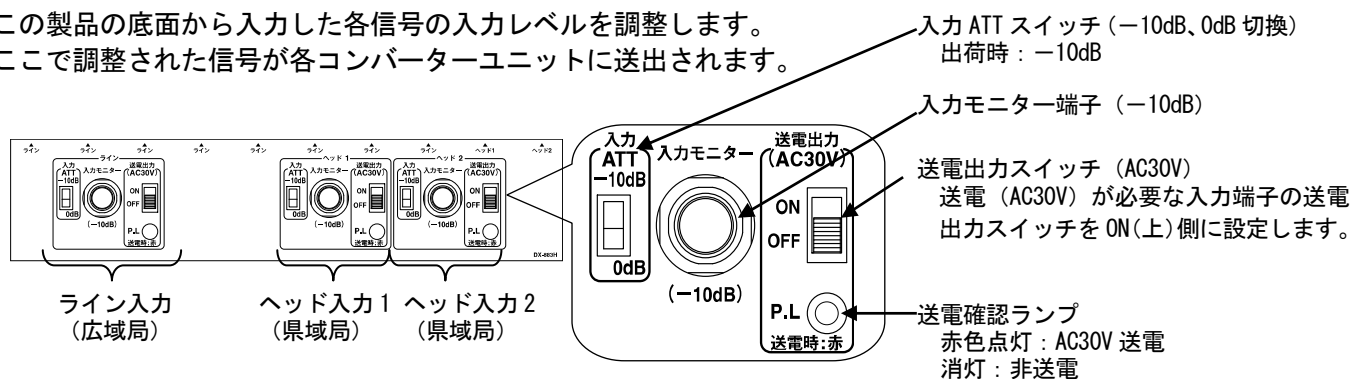
必ず①-②間、②-③間の DC テスト端子で出力電圧を確認してください。



電源確認ランプ (P. L)
電源 (AC30/60V、AC100V) が供給され、
電源ユニットが正常動作している場合
に点灯します。

<入力部>

この製品の底面から入力した各信号の入力レベルを調整します。
ここで調整された信号が各コンバーターユニットに送出されます。

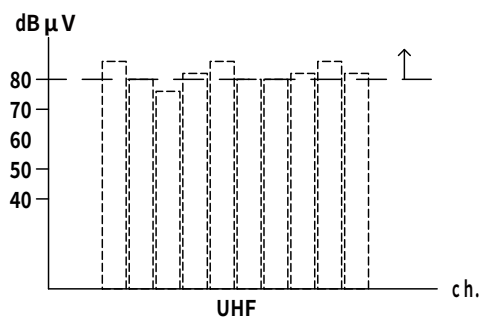
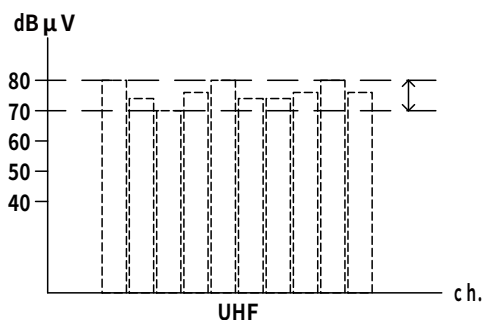
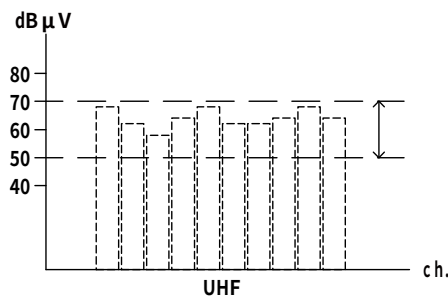
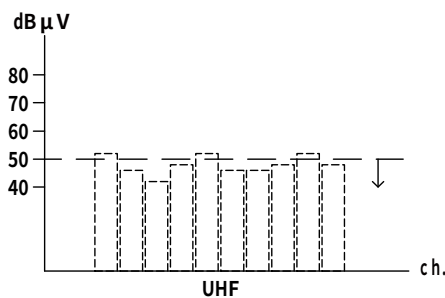


【入力レベルの調整方法】

- 入力部のモニター端子で全チャンネルの入力レベルを確認します。モニター端子は入力信号より -10dB の値で確認できます。希望波と両隣接チャンネルだけでなく、離れたチャンネルの不要な電波 (妨害波) も確認してください。
- 入力レベルが適正範囲になるように、下表のように調整してください。
 - 希望波と各隣接チャンネルとのレベル差が +10dB 以内になるようにしてください。(JCTEA STD-012-10 準拠)
レベル差が +10dB 以上の場合、外付けフィルターによる対策が必要となります。

入力レベル	入力モニターレベル	対応方法
~50 dB μ V 以内	~40dB μ V 以内	外付けプリアンプによる対応が必要です
50~70 dB μ V 以内	40~60 dB μ V 以内	適正入力レベルです
70~80 dB μ V 以内	60~70 dB μ V 以内	入力 ATT スイッチを -10dB 側に設定します
80 dB μ V 以上	70 dB μ V 以上	外付け ATT にて対応が必要です

〔入力レベルによる対応方法〕



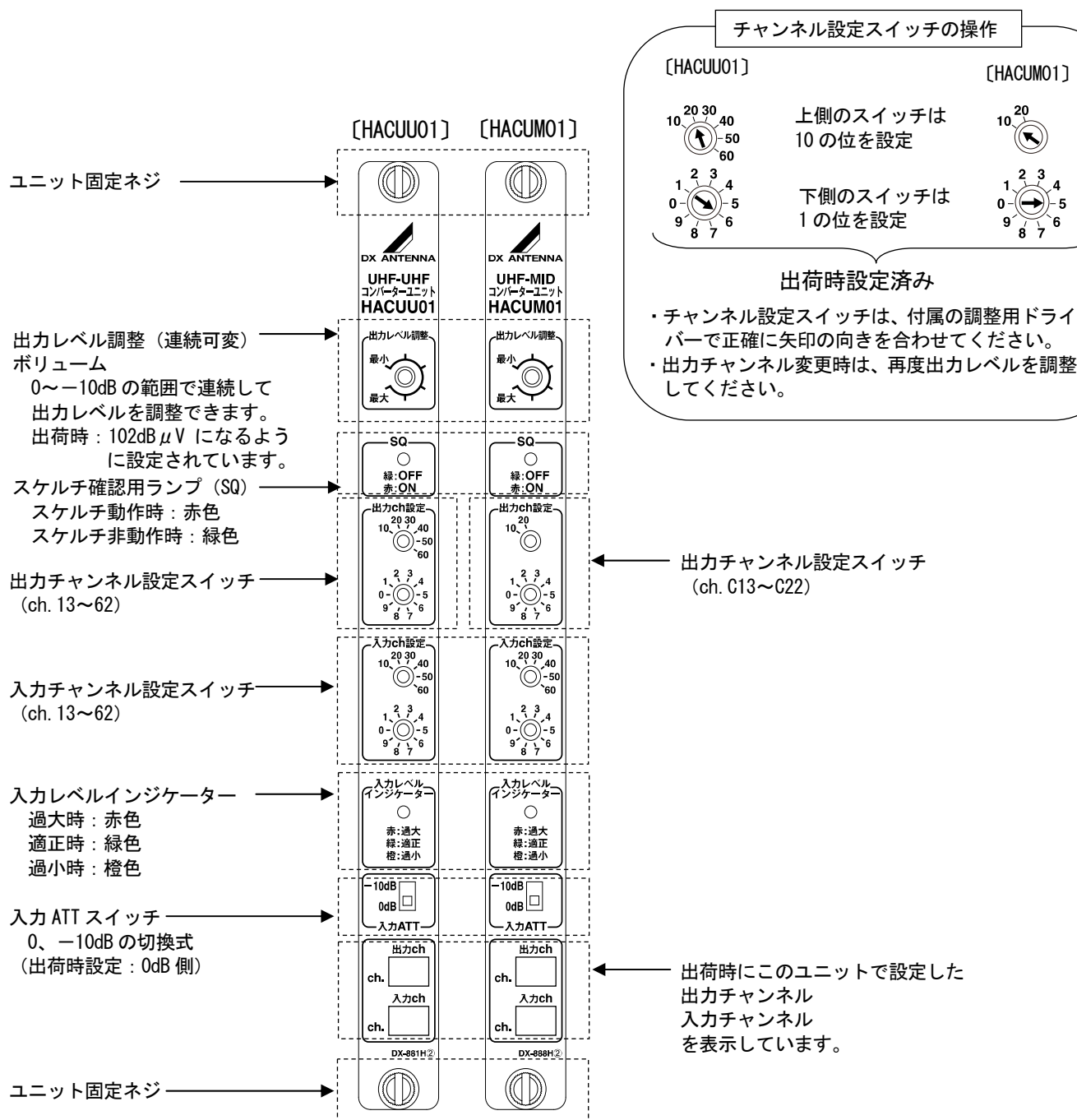
<コンバーターユニット>

地上デジタル放送信号を専用フィルターで不要な信号を除去し、任意の UHF 帯域のチャンネル、または MID バンド帯域のへ変換します。AGC 機能により出力レベルを一定に保ちます。

コンバーターユニットは 2 種類あります。

HACUU01 : UHF-UHF コンバーターユニット (入力 : ch. 13~62、出力 : ch. 13~62)

HACUM01 : UHF-MID コンバーターユニット (入力 : ch. 13~62、出力 : ch. C13~C22)



【ご注意】

出力レベル調整ボリューム、入出力チャンネル設定スイッチを操作するときは、必ず付属の調整ドライバーで軽くまわしてください。強く回すとボリュームや設定スイッチが破損する場合があります。

【入力レベルインジケータについて】

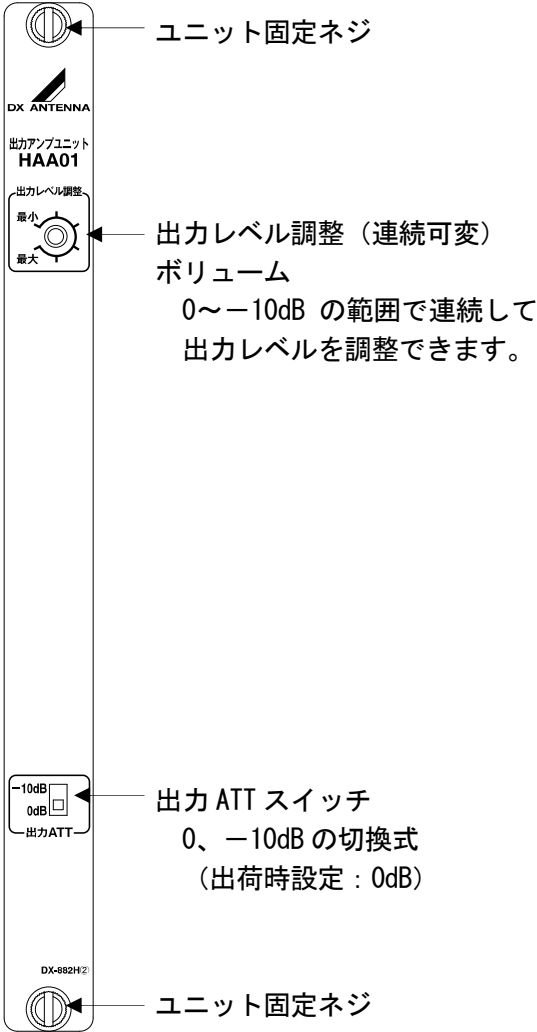
- ・インジケータの点灯で、入力レベルの確認ができます。入力レベルの目安としてください。
- ・正確な入力レベルは入力部のモニター端子で測定してください。入力信号より-10dB の値で確認できます。
赤色点灯時 : 入力レベルを測定後、コンバーターユニットの入力 ATT スイッチを-10dB 側にしてください。
橙色点灯時 : 適正入力レベル範囲内か、入力レベルを測定してください。

＜出力アンプユニット＞

チャンネル全体を増幅するユニットです。
チャンネル全体を調整することができます。

〔ご注意〕

出力レベル調整ボリュームを操作するときは、必ず付属の調整ドライバーで軽くまわしてください。強く回すとボリュームが破損する場合があります。

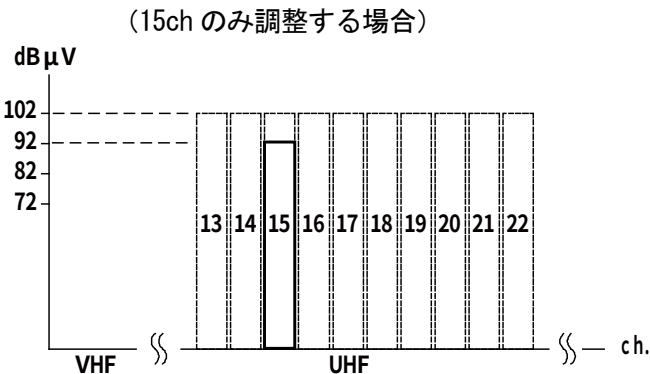
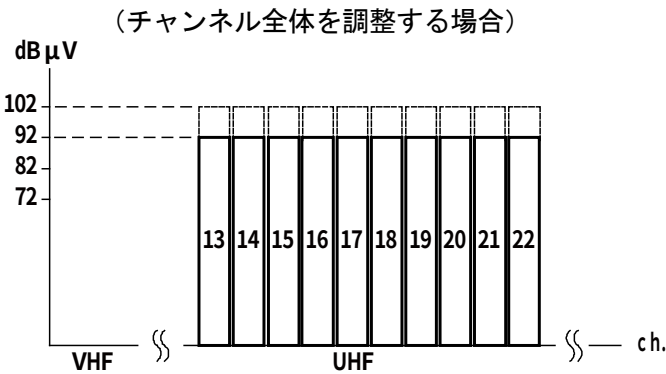


【出力レベルの調整方法】

- (1) 出力部の出力モニターで、チャンネル全体の出力レベルを確認します。モニター端子は出力信号より-20dBの値で確認できます。
- (2) 希望の出力レベルになるように、下表のように調整してください。
- (3) チャンネル毎に個別に出力レベルを調整する場合は、各コンバーターユニットの出力レベル調整ボリュームで調整、設定してください。

出力レベル	出力モニターレベル	対応方法	
		コンバーターユニット	出力アンプユニット
102 dB μ V	82 dB μ V	出荷時設定	出荷時設定
102～92 dB μ V	82～72 dB μ V	出力レベル調整ボリューム	—
102～92 dB μ V	82～72 dB μ V	—	出力レベル調整ボリューム
92 dB μ V	72 dB μ V	—	出力ATT
102～82 dB μ V	82～62 dB μ V	—	出力ATT+出力レベル調整ボリューム

〔出力レベル調整例〕



＜入出力レベルの測定方法＞

- ・ デジタル信号の入出力レベルは、デジタル対応のレベルチェッカーまたは、チャンネルパワーの測定できるスペクトラムアナライザーで測定してください。
- ・ チャンネルパワー等の機能がないスペクトラムアナライザーでデジタル信号を測定する場合は、次の測定方法により確認してください。

【測定手順】

- (1) スペクトラムアナライザーのセンター周波数を、各チャンネルの中心周波数に設定します。
 - (2) スペクトラムアナライザーを次のように設定します。

周波数スパン (SPAN)	10MHz
分解能帯域幅 (RBW)	100kHz
ビデオ帯域幅 (VBW)	1kHz
 - (3) 中心周波数のレベルをスペクトラムアナライザーで測定します。
 - (4) 測定したレベルに補正值 (RBW: 100kHz の場合 19.2dB) を加算した値が、その信号のレベルとなります。
- ご注意：帯域内に大きなレベル差があったり、ノイズの影響が考えられるような受信状況の場合、測定誤差が大きくなります。このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。

メンテナンス

長期間の安定動作を行なうために定期的な点検を行なってください。

【点検】

- (1) 本体の LED 表示状態を確認してください。

電源ユニット	：電源確認ランプ (P.L)
各コンバーターユニット	：入力レベルインジケーター、スケルチ確認用ランプ (SQ)
入力部	：送電確認ランプ (P.L)
- (2) モニター端子で入力信号レベル、出力信号レベルを確認してください。
- (3) トランス部と電源ユニットのテスト端子で電源電圧を確認してください。
- (4) ケーブル等の接続状態を確認してください。
- (5) 必要に応じて、ヒューズ、ユニットを交換してください。

交換作業を行うときは、トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にし、電源ユニットへの電源供給を止めてから行なってください。

【ヒューズの交換方法】

- (1) トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にします。
- (2) 交換するヒューズのホルダーを押しながら矢印（反時計回り）方向に回して、引き抜きます。
- (3) 新たなヒューズの形状、規格、容量が交換前のものと同じであることを確認してから交換してください。
- (4) ヒューズを穴に差し込み、ホルダーを押しながら矢印と反対（時計回り）方向に回して、元通りに装着してください。
- (5) この製品への電源供給方式に合わせて、トランス部の受電切換スイッチ（上側）を切り換えて、電源供給してください。

ユニットの追加、交換方法

この製品は、コンバーターユニットを最大 10 台挿入できます。また、コンバーターユニット、出力アンプユニットと電源ユニットは、容易に交換できます。

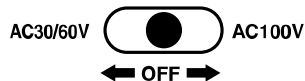
※ユニット交換でご入用の際は、ご購入店、または弊社カスタマーセンターにご連絡ください。

<コンバーターユニットの追加・交換>

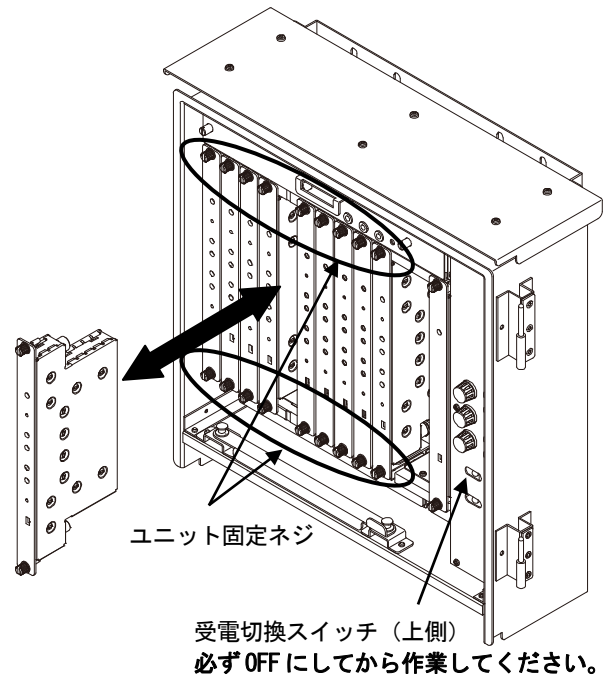
コンバーターユニットは追加、交換ができます。

【ユニット追加・交換方法】

- (1) トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にします。



- (2) ユニット固定ネジをゆるめます。
(3) ユニット脱着時は、固定ネジを持ち手前に引いてください。※取付け時は押し入れてください。
(4) ユニット固定ネジを締付トルク $0.5 \pm 0.1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め、ユニットを固定します。
(5) トランス部の受電切換スイッチを、電源の供給状態に合わせて切り換えます。

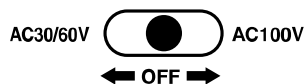


<電源ユニットの交換>

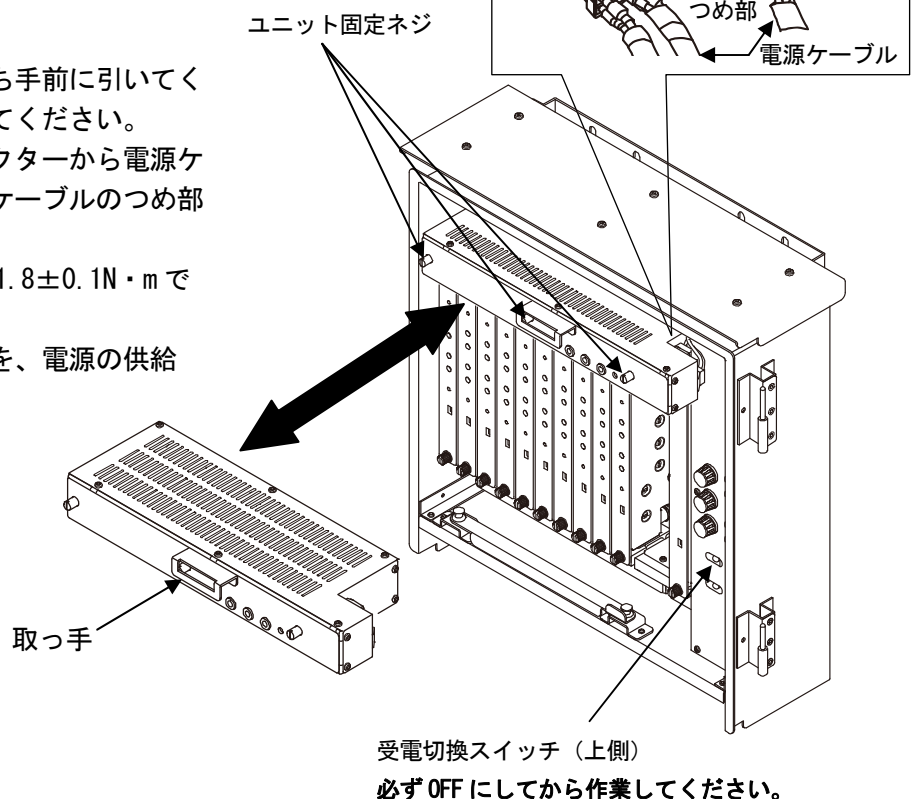
電源ユニットは交換ができます。

【ユニット交換方法】

- (1) トランス部の受電切換スイッチ（上側）を OFF にします。



- (2) ユニット固定ネジをゆるめます。
(3) ユニット脱着時は、取っ手を持ち手前に引いてください。※取付け時は押し入れてください。
(4) 途中で電源ユニット背面のコネクターから電源ケーブルを着脱します。必ず電源ケーブルのつめ部を押しながら行なってください。
(5) ユニット固定ネジを締付トルク $1.8 \pm 0.1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め、ユニットを固定します。
(6) トランス部の受電切換スイッチを、電源の供給状態に合わせて切り換えます。



規格特性

項 目	単位	規 格 値	備考
波 数	波	最大 10	
入 力 チ ャ ン ネ ル	ch	任意の 13~62	UHF 帯域
出 力 チ ャ ン ネ ル	ch	UHF 帯域 : 任意の 13~62 MID 帯域 : 任意の C13~C22	UHF 帯域 : HACUU01 MID 帯域 : HACUM01
入 力 レ ベ ル 範 囲	dB μ V	50~70 60~80	入力 ATT OFF 時 入力 ATT ON 時
入 力 レ ベ ル 調 整	dB	0, -10 (入力分配部 ライン/ヘッド1/ヘッド2) 0, -10 (コンバーターユニット)	切換式 切換式
出 力 レ ベ ル	dB μ V	102	定格
出 力 レ ベ ル 調 整	dB	0~-10 以上 (コンバーターユニット) 0~-10 以上 (出力アンプユニット) 0, -10 (出力アンプユニット)	連続可変式 連続可変式 切換式
モニター端子結合量	dB	-10 -20	入力モニター端子(ライン/ヘッド1/ヘッド2) 出力モニター端子
V S W R		2.0 以下	入出力端子/入出力モニター端子
インピーダンス	Ω	75	入力 F 形 モニター F 形 出力 FT 形
出力レベル安定度	dB	± 1.5 以内	
帯域内周波数特性	dB	± 2 以内	$F_0 \pm 2.79\text{MHz}$
帯域外信号抑圧度	dB	50 以上	$F_0 \pm 3.21\text{MHz}$
位 相 雑 音	dBc/ $\sqrt{\text{Hz}}$	-80 以下	1kHz OFFSET
ス プ リ ア ス	dB	-60 以下	
A G C 特 性	dB	± 1 以内	入力レベル範囲において
スケルチ特性	dB	40 以上	45dB μ V 以下で動作
M E R	dB	32 以上	両隣接 10dBup 時
入力インジケーター	dB μ V	過大 : 70 ± 5 以上 適正 : 50~70 ± 5 以内 過小 : 50 ± 5 以下	過大 : 赤色 適正 : 緑色 過小 : 橙色
周 波 数 偏 差	kHz	± 10 以内 0	周波数変換時 周波数同一時
入力端子送電容量	mA	最大 500	各入力端子合計 (AC20~30V)
耐 雷 性	kV	± 24	1.2/50 μ s
使用温度範囲	$^{\circ}\text{C}$	-10~+40	
電 源 電 圧	V	AC100 / 20~30 / 40~60	切換式 50/60Hz
消 費 電 力	W / VA	40 以下 / 45 以下	最大実装時※
外 観 寸 法	mm	405 (H) $\times$ 390 (W) $\times$ 151 (D)	突起部含まず
質 量	kg	16 以下	

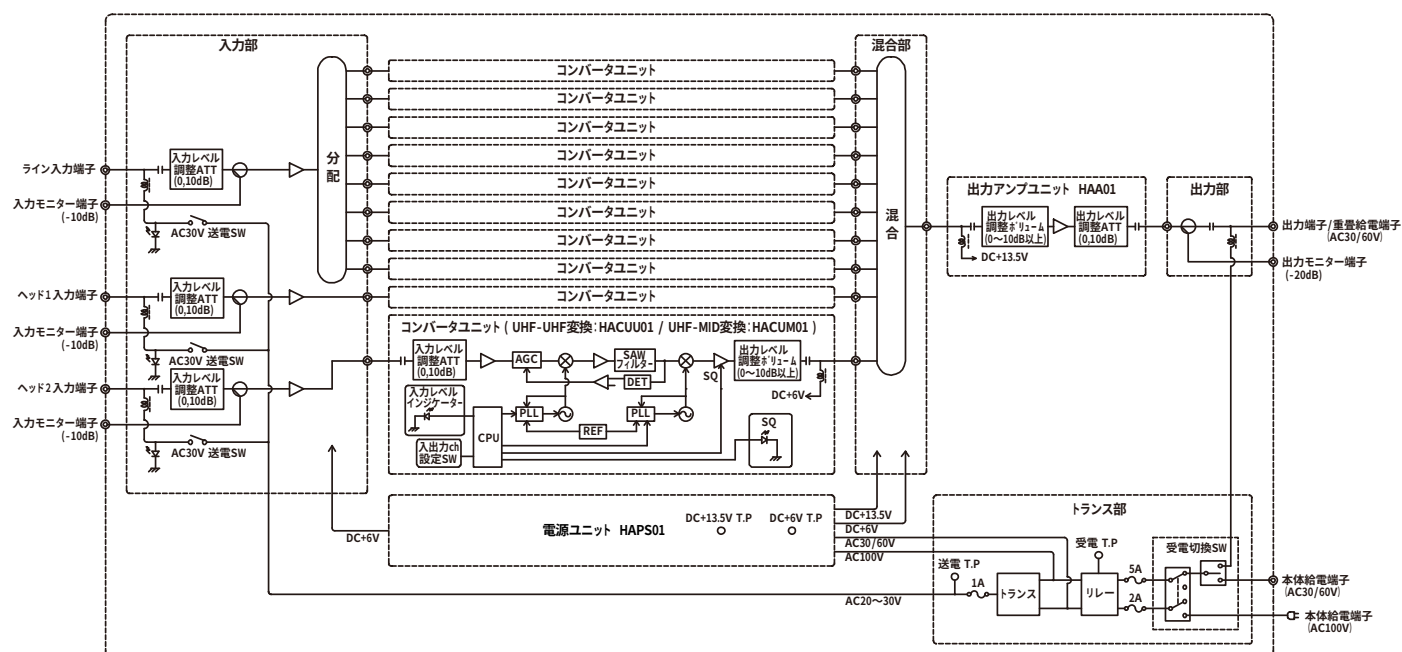
※規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。

消費電力一覧表

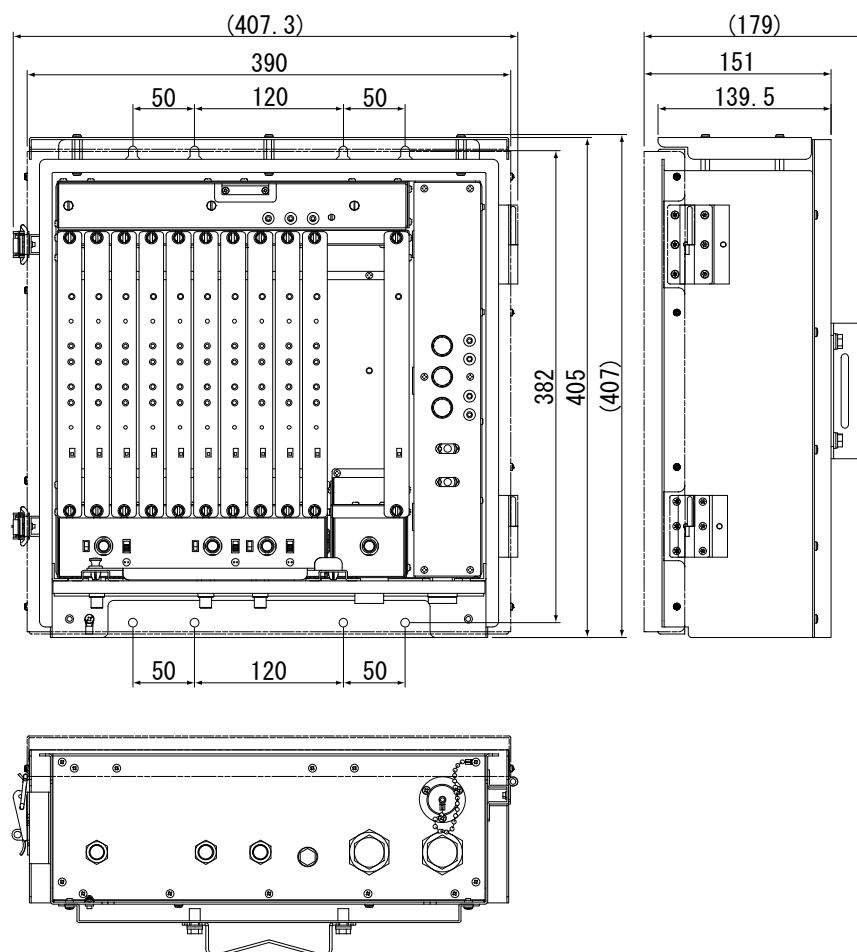
実装数別消費電力一覧表

受電電圧	波数(波)	消費電力(W)	受電電圧	波数(波)	消費電力(VA)	受電電圧	波数(波)	消費電力(VA)
AC100V	0	7.1	AC60V	0	11.2	AC30V	0	7.9
	1	9.9		1	14.1		1	10.8
	2	12.8		2	16.5		2	13.8
	3	15.7		3	19.1		3	16.8
	4	18.7		4	21.9		4	20.0
	5	21.7		5	24.7		5	23.2
	6	24.7		6	27.6		6	26.5
	7	27.6		7	30.5		7	29.7
	8	30.6		8	33.6		8	33.0
	9	33.7		9	36.6		9	36.5
	10	36.7		10	39.8		10	40.0

ブロックダイアグラム



外形寸法図



(単位 : mm)

カスタマーセンター  **0120-941-542**

(受付時間 9:30~12:00/13:00~17:00 土曜・日曜・祝日および夏季・年末年始休暇は除く)

携帯電話・PHS・一部のIP電話で上記番号がご利用にならない場合 **03-4530-8079**

ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号

(2011年2月)